

プロジェクションマッピング技術 誕生の歴史的背景

野口 明華

【要 旨】

本論では、2010年代以降、一般に認知されるようになったプロジェクションマッピングの投影技術を調査し、その歴史的発展を明らかにした。また映写機やプロジェクタを事例とし、投影技術の進歩が映像芸術に及ぼした影響を考察した。

第1章から第3章では、17世紀後半に端を発する投影機の原型から21世紀までの各投影機の技術的変遷を示した。第4章では、プロジェクションマッピング技術の根幹であるプロジェクタの基本構造をタイプ別に時系列順に論じた。第5章では、プロジェクションマッピングという新しい映像芸術が誕生する歴史的背景を扱い、1980年代後半以降のプロジェクタ技術の進歩が、プロジェクションマッピング普及の基盤を作ったことを明らかにした。そしてプロジェクションマッピングの発展を促すためには、投影技術を向上させてその芸術性を高めるだけでなく、投影広告物条例ガイドラインの改善など社会的環境も整備する必要があることを提言した。

【講 評】

プロジェクトマッピングの現代的意義を表層的にとらえるのではなく、その歴史から、また科学の進展から考察するという斬新な内容で十分な評価が与えられると考える。文献の引用、また図表の引用ともに適切と考える。学士論文としては比較的ボリュームのある論文だが、全体としてうまくまとまっており執筆者の努力が伺える。優秀論文として高い評価が与えられると考える。